



シベリア 抑留の 記憶

水彩画が語る

帰還者たちの記憶ミュージアム特別展

MEMORIES OF
DETENTION IN SIBERIA

2026年
2月6日(金)ー15日(日)

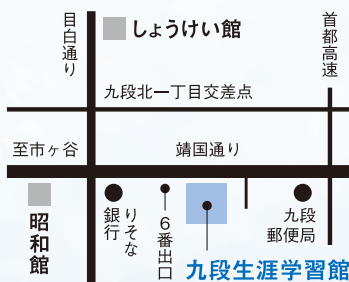
九段生涯学習館2階 九段ギャラリー

東京都千代田区九段南 1-5-10

開館時間：9時～17時

主催：帰還者たちの記憶ミュージアム（平和祈念展示資料館〔総務省委託〕）

後援：千代田区、千代田区教育委員会 協力：昭和館、しょうけい館



入場無料

会場アクセス
東京メトロ東西線・半蔵門線
都営地下鉄新宿線
「九段下」駅6番出口前

※九段生涯学習館には駐車場がありません。近隣のコインパーキングをご利用いただくか、公共交通機関でご来場ください。

3	2	1
4		
5		

- 1.「虜囚列車」勝山俊一
- 2.「ヨーグルトをくれる主婦」田中武一郎
- 3.「吹雪のなか労働へ向かう」早田貫一
- 4.「親子像」古田卓造
- 5.「ナホトカ港」佐藤清

「飢餓」早田貫一



「水彩画が語る」シベリア抑留の記憶

水彩画とは、広い意味では「水溶性の絵の具を用いて描いた絵」を指します。その中でも特に多くの人々に親しまれているのが、透き通る柔らかい色合いが特徴的な「透明水彩」です。誰もが気軽に始められるこの画材を使った作品が、帰還者たちの記憶ミュージアムにも多数所蔵されています。

本展では、当館が所蔵する水彩画の中から「シベリア抑留者（戦後強制抑留者）」が描いた作品を紹介します。戦争が終結したにもかかわらず、シベリアを始めとする旧ソ連やモンゴルなどの酷寒の地において、乏しい食糧と劣悪な生活環境の中で過酷な強制労働に従事させられたシベリア抑留者たち。ある者は厳しい収容所生活のささやかな余暇として、水彩画を嗜み^{たしな}ました。またある者は自らの過酷な体験を伝えるため、帰国後に絵筆をとり水彩画を描きました。彼らが残した作品の数々は、私たちに何を語りかけてくるのでしょうか。



「原木運搬」 勝山俊一



「埋葬」 早田貫一

作品をよく知るための2つの鑑賞ガイド [予約不要、参加者には記念品をさしあげます。] ※参加者多数の場合は、人数制限を行う場合があります。

おしゃべり鑑賞会 with 二松学舎大学 林英一ゼミナール

2月7日(土)、11日(水・祝)、15日(日) 各日11時開始(30分)

学芸員と歴史学を専攻する学生と一緒に、対話を交えて作品を鑑賞します。

学芸員によるギャラリートーク

2月8日(日)、14日(土)、15日(日)

各日14時開始(30分)

展示の見どころを学芸員が語ります。

帰還者たちの記憶ミュージアムにて開催中！

企画展 留守家族たちの肖像

ほんろう
—抑留に翻弄された人々—

シベリア抑留は、残された数百万人の留守家族にも大きな苦難をもたらしました。その姿を手紙や写真で紹介します。

会場：帰還者たちの記憶ミュージアム
(平和祈念展示資料館) 企画展示コーナー

期間：2026年1月20日(火)～4月19日(日)

※会期中に一部資料の展示替えを行います。

休館日：毎週月曜日(祝日の場合はその翌日)、2月1日(日)



抑留者の早期帰還を訴え、高野山の奥之院を行進する留守家族たち
1947年8月22日

昭和館、しょうけい館との連携企画

昭和館

ニュースシアターで関連する映像の上映を行うほか、図書室で関連図書を紹介します。

千代田区九段南 1-6-1 Tel.03-3222-2577

※2月9日(月)休館。2月8日(日)まで常設展示室はお休みです。

しょうけい館

戦傷病者の証言映像を上映するほか、関連図書を図書室で紹介します。

千代田区九段北 1-11-5 グリーンオーク九段2階

Tel.03-3234-7821 ※2月9日(月)休館



帰還者たちの記憶ミュージアム
MEMORIAL MUSEUM FOR SOLDIERS, DETAINEES
IN SIBERIA, AND POSTWAR REPATRIATES
平和祈念展示資料館[総務省委託]

東京都新宿区西新宿2-6-1
新宿住友ビル33階
Tel: 03-5323-8709
<https://www.heiwakinen.go.jp>

